



2022年11月28日

DSR活用による高速調整力のポテンシャル評価について

資源エネルギー庁・次世代の分散型電力システムに関する検討会

エナジープールジャパン株式会社
代表取締役社長兼CEO 市村 健



日本法人設立

電源イチダッシュ市場参入

日本初の経済DR実施



需要予測・JEPX予測・PV発電予測事業開始

東京電力EP資本参加

高速調整力の実証開始

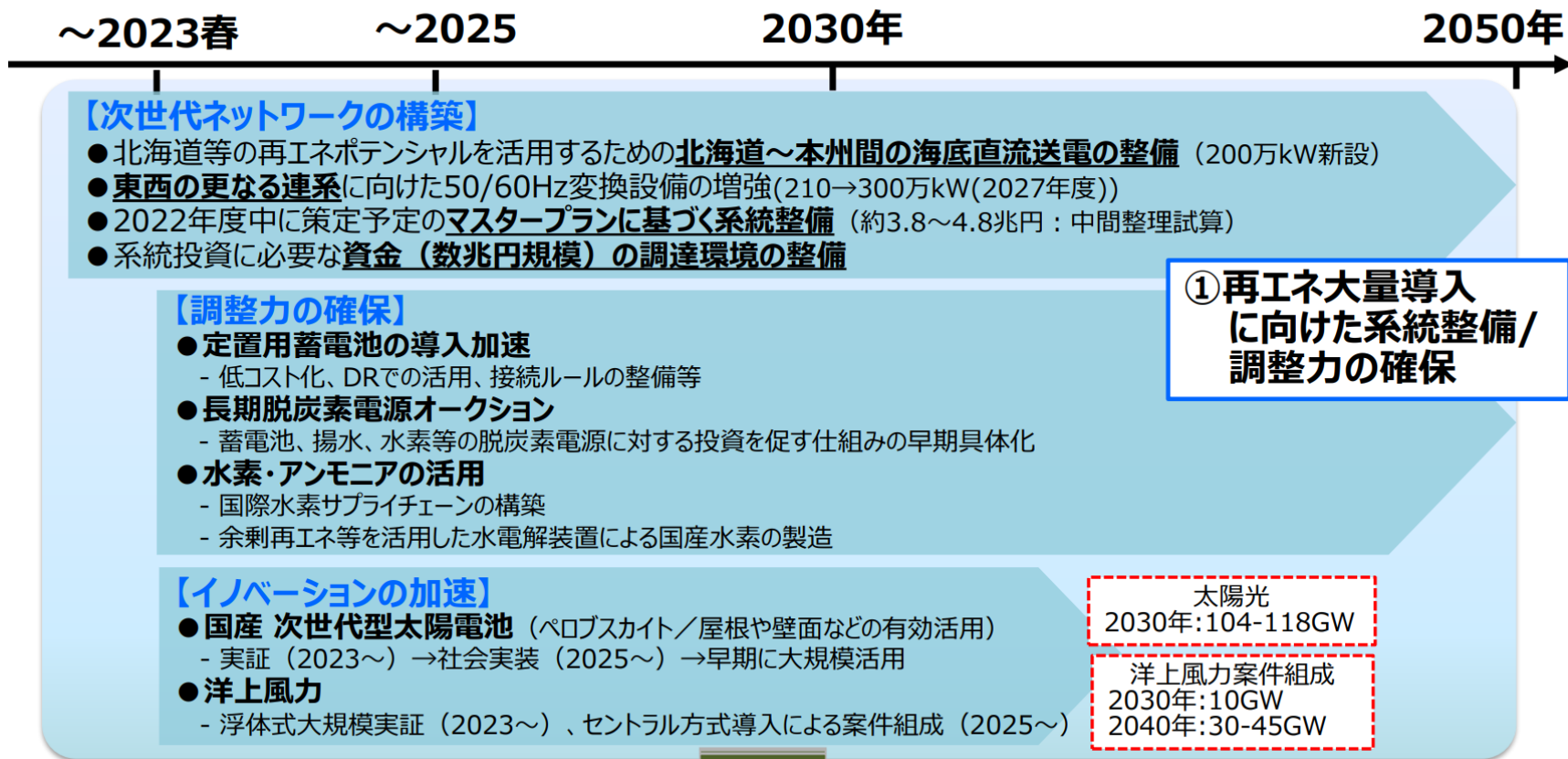
蓄熱槽活用の経済DR開始

エネルギー需給
構造高度化対策
に関する調査等
事業

- 今後はDSRによる高速調整力のpoolingを進めると共に、配電ライセンス制を見据えたDSOによる調整力確保、レジリエンス強化を図る

2022年8月24日「GX実行会議」資料より抜粋

再エネ政策の今後の進め方



https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/gx_jikkou_kaigi/dai2/siryou1.pdf

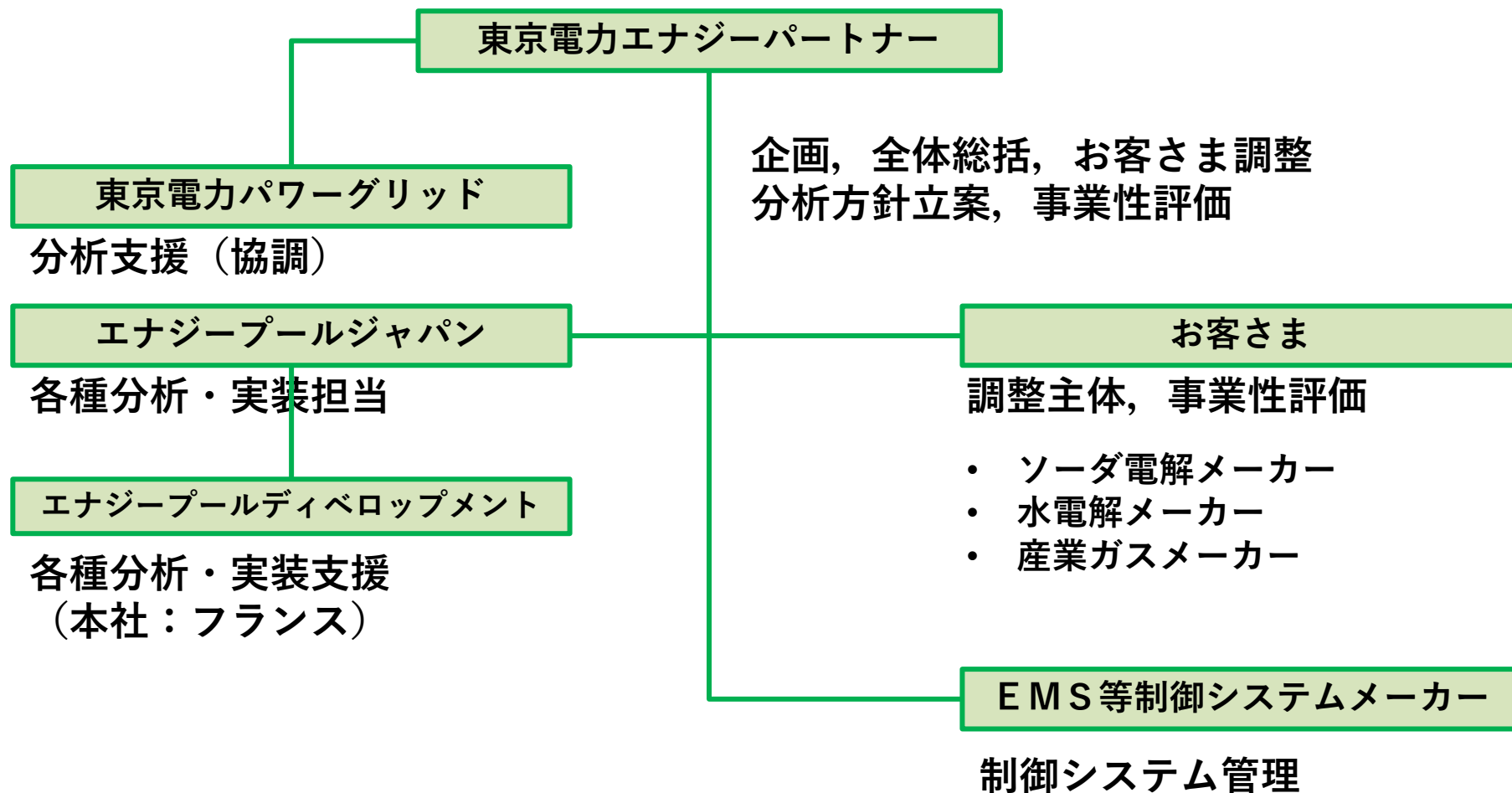
- GX実行会議において、調整力の脱炭素化が議論されているが、他審議会同様に、蓄電池や水素・アンモニアの活用をうたうものの、DSRの活用までは踏み込んでいないのが現状

- 令和4年度「エネルギー需給構造高度化対策に関する調査等事業（DRの更なる活用に向けた実態等調査）」にて、Demand Side Resources (DSR) の調整力としての潜在能力を検証
- 当該実証では、特に一次等の高速調整力の蓋然性を検証している
- 最終的には、一次調整力・オフライン枠の制度設計に反映し得るものにすべく関係機関と調整中



数多くの生産ラインを確認したものの、調整力を現実的に供出できるPOMは相当に限定されることを認識

DSR＝電源「化」は予想以上に難しく、DSRといえども限界があることを実感・・・
それでも難しい課題へのチャレンジにご協力頂いた需要家の皆さまに感謝申し上げます



将来に向けた取り組み

CN社会の実現に向けた
取り組み

蓄電池・蓄熱・水電解etc.
リソース多様化

現状の課題

再エネ導入拡大による
再エネ抑制の増加

調整力不足により需給
調整市場が未達

DSRの高速調整力の活用

需要側での調整力拡大※

※当面は特高からスタートし、
DSOにおける調整力確保も鑑み
高圧へ拡大

昼間の火力発電による
並列台数を減らすことが
可能※※

調整力不足解消に寄与
し得る

※※慣性力、補助蒸気確保のため
の最低並列台数は必要

- 現状の課題解決、
将来のCN社会に
向けて、DSRによる
高速調整力が必須
- そのためにはオフ
ライン枠を設け、
早期育成が必要
不可欠